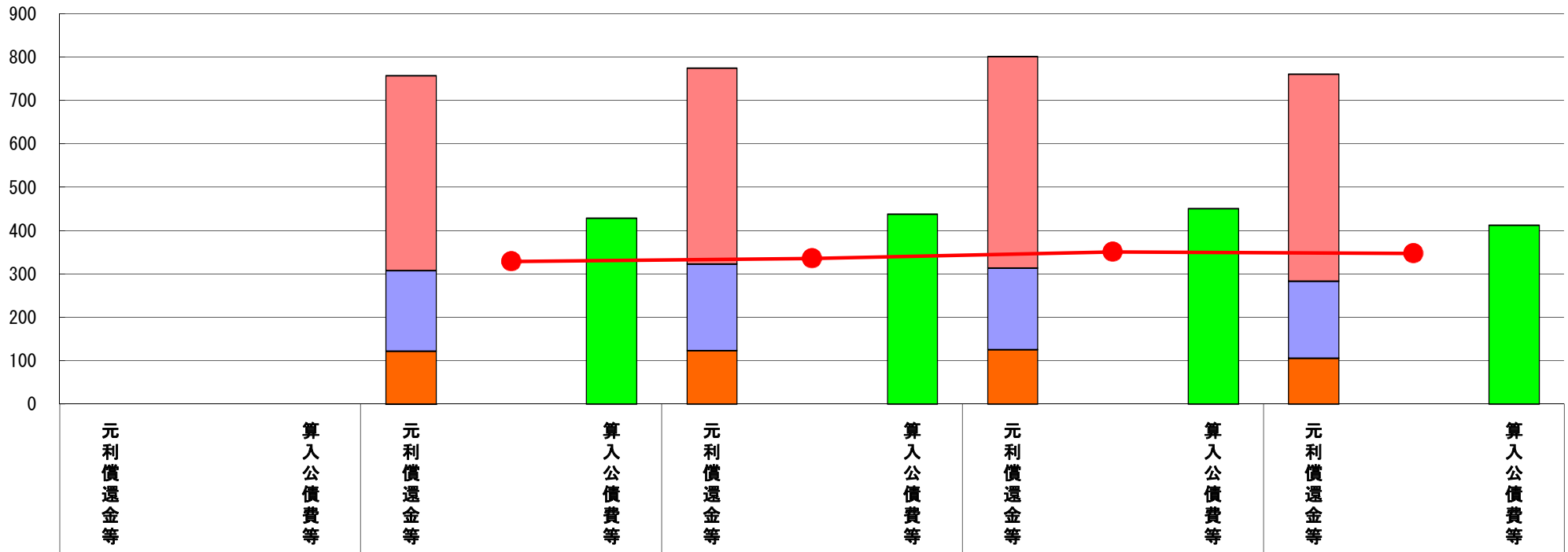


# (7) 実質公債費比率（分子）の構造（市町村）

平成22年度

宮城県大郷町

(百万円)



(百万円)

分子の構造		年度	H18	H19	H20	H21	H22
元利償還金等 (A)	元利償還金	-	450	452	488	477	
	積立不足額考慮算定額	-	-	-	-	-	
	満期一括償還地方債に係る年度割相当額	-	-	-	-	-	
	公営企業債の元利償還金に対する繰入金	-	186	199	188	178	
	組合等が起こした地方債の元利償還金に対する負担金等	-	121	124	126	106	
	債務負担行為に基づく支出額	-	1	0	0	0	
	一時借入金利息	-	-	-	-	-	
算入公債費等 (B)	算入公債費等	-	429	439	451	413	
(A) - (B)	実質公債費比率の分子	-	329	336	351	348	

## 分析欄

平成19年度から22年度の実質公債費比率は13.8~14.1%の間で推移しており、ほぼ横ばい傾向にある。内訳としては、公営企業債の元利償還金に対する繰入金と組合等が起こした地方債の元利償還金に対する負担金等は減少しているが、一般の元利償還金については増加傾向にある。前年度比で見れば0.4%減となっているが、一般単独事業債の元金償還の減によるものであり、今後は統合小学校建設費などの起債の償還等に伴う率の上昇が見込まれるため、新規発行の抑制等、引き続き健全化の維持に努める必要がある。

※平成19年度決算と平成20年度決算の元利償還金は特定財源の額を控除しており、満期一括償還地方債に係る年度割相当額は積立不足額を考慮して算定した額を含んでいる。

※平成23年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。